



えがお 愛顔つなぐえひめ国体

第72回国民体育大会

平成29年9月30日(土)～10月10日(火)



他の審判員と一緒に (左から二人目が栗野さん)



右から三人目が栗野さん

愛は南から――

町に響らす

素敵な人たちを紹介します

国体は貴重な経験

これからも地域のソフトボールのために

南宇和ソフトボール連盟審判長 栗野好晴さん

えひめ国体を終えて

愛媛県勢の大活躍に沸いたえひめ国体。大会の成功は選手だけでなく、関係者やスタッフの力があってこそのものでした。ソフトボール競技で公式審判員を務めた栗野好晴さんは、職場の理解を得て大会に向けて審判員の研修に参加するなど、長年にわたり準備を重ねてきました。

「国体ではお客さんが超満員で緊張しましたが、貴重な経験ですし、嬉しいです」と率直な感想を述べます。

審判員が続けられる理由

国体で審判員を務めるために必要となる第1種審判員の資格

を取得したのは6年前のこと。えひめ国体で審判員を務めたこと、思ったことがきっかけでした。「審判技術について厳しい指導を受けることもありましたが、それでも嫌にならずに次に活かそうと思えるのは、ソフトボールが好きだから」と言います。

審判員として大切なこと

えひめ国体ではグラウンド内で判定する球審や塁審のほか、副審も合わせて計6名体制で試合に臨みました。

審判員を務めるうえで大切なことは、「まずはミスジャッジをしないこと。そのためにはルールを深く知ることはもちろん、他の審判員との信頼関係や協力が重要です」と話します。

プロフィール
1961年生まれ。株式会社泰成建設勤務。御荘中、南宇和高では野球部に所属。選手として社会人チームでソフトボールや野球を続けながら、ソフトボールの審判員資格を取得し、さまざまな大会で経験を重ねる。先ごろ開催されたえひめ国体ではソフトボール競技(成年女子の部)の公式審判員として2試合で一塁塁審を務めた。

そのため、試合前のミーティングも時間をかけて入念に行っています。

地域のソフトボールを盛り上げていくために

えひめ国体での自身の出来には満足していると言いつつも、「ずっと球審がしたいと思っていたので実は不完全燃焼。これからももっとルールなどを勉強して、次の大会に向けて改善していきたい」と前を向きます。地域のソフトボールの課題としては子どもや競技人口の減少などを挙げ、「これからも地元の大大会には審判員や選手として可能な限り参加し、ソフトボールを盛り上げていけたら」と意欲を見せました。